



冬鳥越スキーガーデンのバラ園

主な内容

- プロゴルフ若林舞衣子選手 2 勝目… ②③
- 第11回 加茂桐たんす祭り…………… ④
- カメラスケッチ…………… ⑤
- 市民親善ゲートボール大会結果…………… ⑥
- 歯の健康「噛(か)ミング30運動」…… ⑦
- 加茂の風土記「町村合併の始まり」…… ⑧

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院を盛り立てましょう

若林舞衣子選手

プロゴルフツアー2勝目

さらなる活躍に期待



4月15日、西陣レディースクラシックで優勝カップを手にする
若林舞衣子選手



西陣レディースクラシックでの
若林舞衣子選手

加茂市出身のプロゴルファー若林舞衣子選手（ヨネックス所属）が西陣レディースクラシック（四月十三日～十五日、熊本空港カントリークラブ・熊本県）で三年半ぶりとなる二勝目をあげました。本当におめでとうございます。

有名選手が五十～六十人もひしめいている女子プロゴルフの世界で、優勝するということは、並大抵のことではありません。

本当にすばらしいことであり、若林舞衣子選手は、加茂市の誇りであります。

若林舞衣子選手は平成十九年にプロテストに合格し、翌年十月に日本女子プロゴルフツアー史上六番目



第14回ヨネックスレディス2012での
若林舞衣子選手（写真：上・左・下）
写真提供＝ヨネックス株式会社



の若さで初優勝を飾りました。この年からは、年間成績で常に上位を維持しています。

そして今年、西陣レディスクラシックで二位と二打差で優勝を決めました。また、五月二十五日から地元新潟県長岡市のヨネックスカントリークラブで開催された第十四回ヨネックスレディス2012（五月二十五日～二十七日）では、十位タイの成績をあげ、健闘されました。

今年度は、十一月までに三十五試合が予定されているなか、さらなる御活躍と御健闘をお祈りしてやみません。

第11回 加茂桐たんす祭り

六月二十九日から七月一日までの三日間、産業センターで「加茂桐たんす祭り」が開催されました。オープニングセレモニーでは、加茂箆笥協同組合の茂野組合長が「欧州の高級家具は重いものが

多いが、日本の桐製品の特徴である軽さと丈夫さ、木目を生かしたやわらかさをセールスポイントに海外への売り込みを進めています。足元である産地でも怠りなくPRしていきます」と挨拶しました。



展示会場のホール内には、伝統的工芸品として知られる桐たんすから桐製の収納家具、リビング用にデザインされたサイドボードなどが展示され、訪れた大勢の人たちから「昔ながらの桐箆笥だけではないのですね」という声が聞かれました。

また、ホール入口で古くなった箆笥のリフォームも実演され、「自宅の箆笥もリフォームが可能か」と相談されるお客さまも見られました。

開催初日は、ロビーで桐たんすの製作体験が行われました。抽選で選ばれた女性五名と、若い人たちへも桐たんすの魅力を伝えてもらうとミス雪椿の棚橋さんにも参加していただき、「和装二段たんす」を桐たんす製造に携わる職人から指導を受けながら製作に挑戦してもらいました。一日をかけて完成させたたんすを前に参加された皆さんは「職人さんの道具の使い方や仕上りのなめらかさに技術や製品のすばらしさを感じます」と話し、自分で作った桐たんすに入れる着物についても考えているようでした。





噛ミング30 (カミングサンマル) 運動

厚生省の検討会が平成

二十一年に、「歯・口の健康と食育」噛ミング30を目指して」とする報告書を公表しました。多くの人が知るところの「8020運動」がむし歯や歯周病の予防に大きな成果を上げていることから、口の機能すなわち「食べ方」にも目を向けた国民運動にも、取り組むことが大切であるとそこには書かれています。そのキャッチフレーズが「噛ミング30 (カミングサンマル)」です。これは「一口三十回かみなさい」ということでは

ありません。「健康な口と歯で、よくかんで、味わって食べましょう」という目標です。

食べることはすなわち生きることで、健康寿命を延ばすには、食べるにかかわる口と歯が健康であることがとても大切です。その

新潟県の噛ミング30のキャッチフレーズ「ひとがすき」。よく噛んで食べることは、生活習慣病予防、メタボ予防につながります。

基礎は子供の頃に作られます。子供たちはもちろん、多くの皆さんがこの「噛ミング30」を通して、「健康な口で、味わって食べる」ことの意義が広まることが望まれます。

(加茂市歯科医師会)

歯科健診・相談会

歯っぴいスマイル加茂

6月3日

歯の衛生週間に合わせて、恒例となったこの無料歯科健診には、二百七十人以上の人から会場の市役所市民ロビーにおいていただきました。市民ロビーには、歯科健診、食育、手づくりおもちゃなどのコーナーがあり、ガムで自分の噛む力がどれぐらいあるか調べることもできました。また、保健推進員OB会による食育劇や小京都



戦隊カモンinjaが活躍するショーも上演されました。健診コーナーでは歯科医師会の先生方に「むし歯ある？」と心配そうにたずねる子どもたちに「しっかり歯みがきしているようだからだいじょうぶ」という会話がよく聞かれました。



冬鳥越スキーガーデン バラ園

今年のバラ園は、大雪の影響で満開の見ごろが約一週間ほど遅れました。バラ園には百五十種ほど約二千七百本のバラが整備されており、六月八日ころから見ごろになった花を市内をはじめ県内各地から大勢の人たちが訪れていました。

バラ園には、品種名の書かれたプレートがあり、訪れた皆さんは

お気に入りのバラの名前を覚えたり、自宅の庭で育てる品種をここで考えていたり、いろいろな楽しみ方をしていました。

初夏の最盛期を過ぎると、花の小さな品種を中心に花を楽しめませんが、秋のシーズンに合わせて木を整えていきます。秋は九月下旬から十月上旬ころが見ごろになりますのでお楽しみください。



加茂川一斉清掃（6月3日）

勤労青少年ホームのある駒岡橋付近から石川公園・ゲートボール場までを約二千五百人が参加して加茂川一斉清掃が行われました。回収されたごみの量は、空き缶やビンなどの不燃ごみが約一トン、燃えるごみや雑草などが約八トンでした。早朝からにもかかわらず、大勢の皆様から協力していただきありがとうございました。



第15回加茂市長杯争奪

市民親善ゲートボール大会

期日 六月十日

会場 すぱーく加茂

参加チーム数 八チーム

優勝 秋房

準優勝 ゆきつばき

第3位 七谷Dチーム

第15回市民ラケットテニス大会

期日 六月十七日

会場 勤労者体育センター

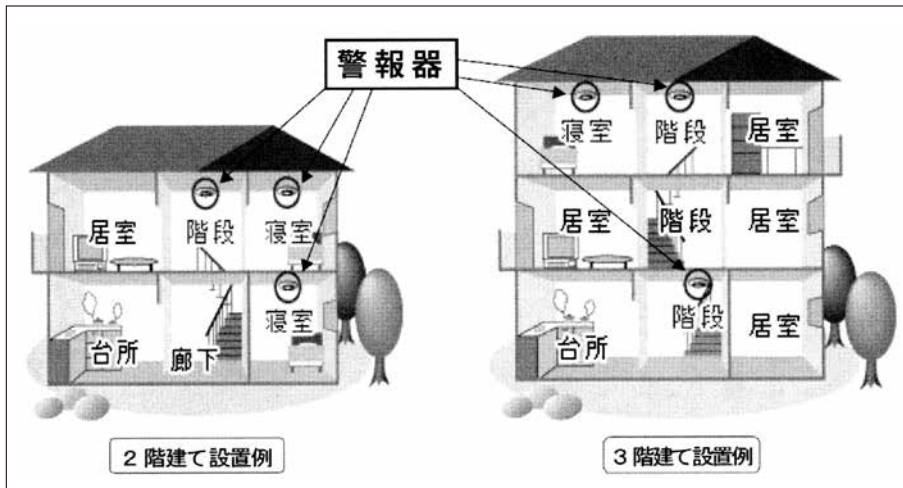
▼一般男子ダブルス①山田喜良・齊藤健②川俣美明・下村公一③遠山豊彦・菅家秀一、長谷川浩・青柳敏彦▼一般女子ダブルス①田浦純子・滝沢麻衣子②川俣郁子・松原美智▼一般男女混合ダブルス①

山田喜良・山田のり子②青柳敏彦・滝沢麻衣子③松原信道・坪谷幸、長谷川浩・田浦純子



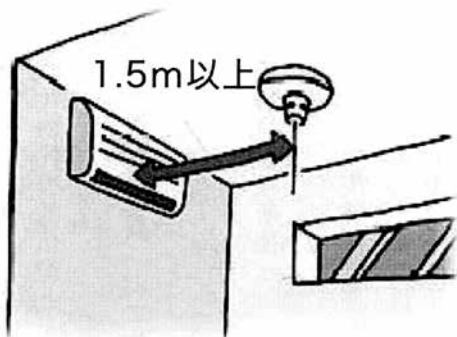
火災から大切な生命を守るため 住宅用火災警報器を取り付けましょう

住宅用火災警報器の設置が 義務づけられています

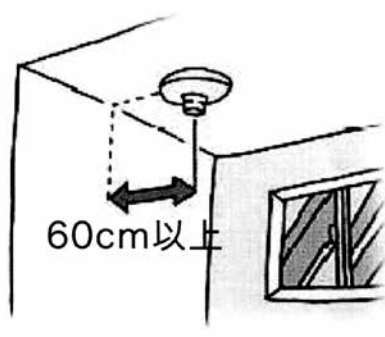


設置場所

- 寝室
- 寝室がある階の階段
(3階建て以上の住宅
はお問い合わせくだ
さい)
- ※台所への設置もお勧
めします



換気扇やエアコンがあるときは、1.5m
以上離して取り付けてください。



天井に取り付けるときは、壁や
はりから60cm以上離します。

取り付ける場所

警報器は、防災用品店、ホームセンター、家電販売店、ガス器具販売・工事店などで取り扱っています。機器の種類は光電式（寝室・階段用）とイオン化式（廊下用）の2種類があり、個人で取り付けることもできます。詳しくは、販売店、工務店などにお問い合わせください。

機器の購入、設置場所のお問い合わせは
加茂地域消防署へ

電話 52-1770

(※110番・119番は緊急通報専用電話です。
火災発生場所は、電話52-1233テレガイド
でお知らせしています。)

ご注意ください!!

消防署・消防団が「住宅用火災警報器」
「消火器」などを訪問販売することはあり
ません。「消防署から来た」という言葉に
はご注意ください。

町村合併の始まり

明治期の加茂市域変遷(一)

江戸時代、村には藩の役人は常駐せず、庄屋・組頭などのもので「自治」が一定程度許されていた。村に課された年貢を藩(領主)に納めれば、村役人の給与や事務経費、道路・治水等の土木費、鎮守の維持祭典費、といった村運営のための経費をどう決め、どう使おうが、藩からの指示や干渉はないのが普通だった。

明治四年(一八七二)、廃藩置県

を断行して西欧

列強にならって中央集権の近代国家を目指した政府は、翌五

年、支配の単位であった町・村を、

江戸時代の支配領主の異同を越えて

近接地域ごとに組み合わせ、大区

(標準一万户)―小区(同千戸)―

組合(同百戸)とする、大区小区制

を実施した。庄屋・名主等に代えて

新設した区長・戸長・用係も、大区・

小区・組合におかれた。

当時、町村数は約八万で、一町村

当たりの人口は三〇五百人程度だっ

た。加茂市域も、表に示したように

三十二もの町・村に分かれていた。

下条村と天神林村は、領主(年貢納

入先)が二つまたは三つに分かれて

いたことによる区分けであった。こ

うした小規模の町・村がそれぞれ、

前記のような村の運営費(「民費」

と呼んだ)を賦課しては、富国

強兵・殖産興業遂行のための国税増

収が困難なことは明らかである。

そこで政府は、五年から六年にか

け、一村がいくつかに分かれている

村や、人口・土地が少なく、無用の

「民費」がかかる村は、漸次合併す

るよう指示した。表中の明治九年・

十年の、下条村・

天神林村・狭口

村・上条村関係の

合併は、こうした

政府の方針を受け

てのことであっ

た。だが、人々の

暮らしの単位であ

った町村を、戸数

だけで機械的に分

合する大区小区制

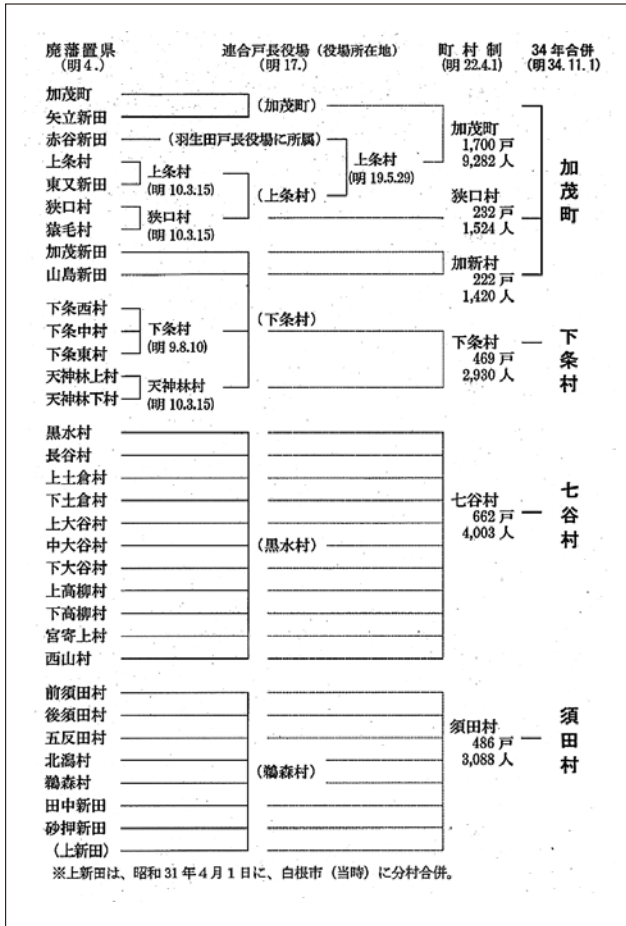
や町村合併策に

は、不満反発も多

かった。

(溝口敏彦)

加茂の風土記



あいち

社会福祉寄付金

▼川崎精一さん(第24区)から

十万円

▼栢森茂昌さん(穀町)から

百万円

▼かも88会から 七万三千元

社会教育費寄付金

▼ラ・クープ(寿町)から

二万五千六百元

加茂市へ

▼有有限会社家具のまるやま(三条

市)から 車イス一台

人口のうごき

6月1日現在

世帯 10,220 (+3)

人口 30,125 (-12)

男 14,546 (±0)

女 15,579 (-12)

()内は前月比

(5月異動分)

出生 19 (男11 女 8)

死亡 42 (男19 女23)

転出 48 転入 59